

「かしてつ応援団」会議（18年度第1回） 結果報告

- 1 実施日時 7月26日（水） 午後13時40分～16時20分 小川高校 セミナーハウス
- 2 参加校 9校 生徒40人、教員12人
中学校： 石岡、玉造、玉里
高校： 石岡二、石岡商、小川、玉造工、鉾田一、鉾田二

3 会議の内容

（1）かしてつ応援団の活動報告と鹿島鉄道の現状報告

- ① 「70歳のディーゼルカー 鹿島鉄道の旅」（2006年5月NHK放映）の視聴
- ② パワーポイント（パソコン）による活動報告
 - A 1万6千筆を超える署名を対策協議会に提出した。
 - B ラッピング列車、格安フリー切符の発売、PR活動などかしてつ応援団はがんばっている。
 - C 沿線住民も、「かしてつブルーバンドプロジェクト」などを行い、鹿島鉄道を盛り上げるためにがんばっている。
 - D しかし、利用者は減少する一方であり、会社の経営は厳しい。
 - E 親会社の関東鉄道の経営が厳しいことと沿線市町村や県の動きが鈍いので、鹿島鉄道が廃止届を（2007年3月末での）国土交通省に提出した。
 - F 10月をめどに存続の可否が決まる見通しだが、公的支援の継続が不可欠である。

（2）各校の活動報告

- 小川高 : 署名、募金、七夕飾りの設置に取り組んだ
- 石岡二 : 署名活動、募金。PR幕を作成し、石岡駅に掲示。
- 鉾田二 : 利用キャンペーンを行った。PR幕を作成し、鉾田駅に掲示。
- 玉造工 : 募金と署名活動。
- 鉾田一 : 署名。ブルーバンドの普及。PR幕を作成し、鉾田駅に掲示。
- 玉里中 : 募金活動。
- 玉造中 : 募金活動。PR幕を作成し、玉造町駅に掲示。
- 石岡中 : 募金と署名活動。挨拶運動の時にかしてつのパンフレットを配布。
- 石岡商 : 募金と署名活動。ブルーバンドの普及。のほりを東田中駅に立てた。

（3）夏休み中の活動の参加予定

- ① 7月30日（日） 百里基地航空祭での募金と宣伝活動。小川高校参加。
- ② 8月6日（日） 石岡七夕フェスタでの募金と宣伝活動。石岡二高参加。
- ③ 8月19日（土） マールトリ・フェスティバル2006（小川） 小川高校参加。
- ④ 8月26日（土） 霞ヶ浦サンセットウォーキング 小川高校参加。
- ⑤ 8月27日（日） “かしてつ祭り8・27” 石岡二、石岡商業、小川高参加。

(4) 中学生、高校生の利用を増やすための方法

- ① 駅からのバスとの接続を便利にする。
- ② 片道定期を発売する。
- ③ 文化祭などで写真を展示して、みんなに知ってもらう。
- ④ 割引券を配る。
- ⑤ 通学時間帯に増便し、昼間は減便するなど、ダイヤの見直しを行う。
- ⑥ 料金を安くする。
- ⑦ 車内にBGMを流す。
- ⑧ 学校の全校集会などで利用を呼びかける。
- ⑨ 利用者に粗品を贈る。利用者に抽選で景品を贈る。
- ⑩ 意見箱を設置する。
- ⑪ バスと共通のフリー切符をつくる。関鉄グループで共通の回数券、定期券をつくる。
- ⑫ かしてつのテーマ曲をつくる。「だんご3兄弟」のようなもの。
- ⑬ SL・トロッコ列車などを運行する。
- ⑭ ノーマイカーデーの呼びかけをする。
- ⑮ まち全体で乗車キャンペーンを行う。

(5) 鹿島鉄道の存続を願うアピールの採択

別紙のようなアピールを採択しました。ビデオと一緒に、関係者に送付します。

(6) 「ビデオ」(緊急アピール かしてを救え) の送付状を作成

参加者が分担して、別紙のように50ほどの関係者へのビデオ送付状を作成しました。
ビデオの内容は別紙をご覧ください。

4 会議の確認事項

- ① 10月までに存続できるかどうかが決まるので、地域のイベントなど色々な場で公的支援の継続を訴える。。
- ② 鹿島鉄道を応援するための募金活動を継続する。
- ③ 募金用のグッズとして「うちわ」を作成したので、配布する。
- ④ 「かしてつ祭り8.27～鹿島鉄道・熱狂の日～」に、主催団体として参加する。
- ⑤ ビデオ「緊急アピール かしてを救え」を存続問題に影響力のある方々に送付するとともに、一般の方にも普及する。
- ⑥ 会議で出された「中学生と高校生の利用を増やすための方法」を鹿島鉄道対策協議会に提案する。